

基礎ゼミナール

単位数（時間数）：2 単位（60 時間） 必修/選択：必修 履修年次：1 年次 開講時期：通年

科目責任者（職位・氏名）：准教授・上田耕介

科目担当者（職位・氏名）：講師・牛渡亮

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢

看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：8

■ 授業概要

1名の教員のもと約10名の学生がゼミグループを形成し、指導教員の指導の下、研究の仕方、大学での学習の仕方を学ぶ。前期において、共通の課題のテーマに応じて文献検索、討議、レポート作成を行う。それを基に学生は、後期において、各グループで課題を設定し、能動的・主体的に学習を展開し、課題に取り組むための姿勢および論理的・批判的思考、コミュニケーション能力（文章表現・口頭発表）など、大学における基本的な学習能力を修得する。特に、事前学習の習慣を身につけ、積極的に授業に参加する基礎的な姿勢を養う。

■ 到達目標

<前期>

前半では大学での学び方について理解を深める。その後、これからの4年間の大学生活のなかでも用いられるアカデミック・リテラシーの基礎について学ぶ。同時に、知や学ぶ時からの基礎力となる読解力、文章作成力について、作業を行いつつ力を涵養する。

これに続いて、グループごとに指導教員の下での学習を行い、以下の目標への到達を目指す。

1. 各自主体的に課題を提案し、グループで協議し、積極的に課題を決めることができる。
2. 課題を検討するための情報収集や討議を行うことを通して、情報収集の方法と整理方法について理解できる。
3. アカデミック・リテラシーについて、担当教員の指導の下でその使い方を理解できる。
4. グループワークを通して、他者の意見を聞くことや自己の考えを適切に表現することができる。
5. 学習の成果を文章あるいは口頭でわかりやすく他者に向けて発表、伝達することができる。
6. 他者の発表の内容を理解し、それに関する論点について考え、表現することができる。
7. 以上を通じて、主体的に学習するための技術を修得することができる。

<後期>

前期につづき、上記の目標への到達のため、担当教員の指導の下で、グループごとに学習を継続して行う。

■ 教育内容

科学的思考の基盤、人間と生活・社会の理解

■ キーワード

ゼミナール、大学での学び方、アカデミック・リテラシー、グループワーク

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

| 回 | 授業項目 | 授業内容・授業方法 | 担当 |
|----|-----------------|--|------------|
| 1 | 大学での学びとゼミ（1） | 一斉講義（本学について／本授業についてのイントロダクション／大学の授業と学び方、講義の選択、など） | 濱中・ 上田 |
| 2 | 岩手県立図書館について知る | 演習（大学エントランスに集合し県立図書館にて見学、場合によっては講師を招き県立図書館について解説をしていただく） | 牛渡、 ゲスト |
| 3 | 大学での学びとゼミ（2） | 一斉講義（大学とはなにか、大学について知る、選択としての大学進学、大学での生活など） | 上田 |
| 4 | 大学での学びとゼミ（3） | 一斉講義（科学と倫理） | 上田 |
| 5 | 大学での学びとゼミ（4） | 一斉講義（学術世界の倫理） | 上田 |
| 6 | 大学での学びとゼミ（5） | 一斉講義（レポートの意義と構成） | 上田 |
| 7 | 大学での学びとゼミ（6） | 一斉講義（レポートのアウトライン作成） およびワーク | 上田 |
| 8 | 大学での学びとゼミ（7） | 一斉講義（作成したアウトラインの検討）、 およびワーク | 上田 |
| 9 | 大学での学びとゼミ（8） | 一斉講義（参考文献の表記法、注の付け方）、 およびワーク | 上田 |
| 10 | 大学での学びとゼミ（9） | 一斉講義（文章表現）、 およびワーク | 上田 |
| 11 | 図書館の利用方法・文献探索方法 | 演習 | 牛渡、 ゲスト |

| | | | |
|----|----------------|--|------------|
| 12 | 大学での学びとゼミ (10) | 一斉講義 (発表の際の配付資料の作成法)、 およびワーク | 上田 |
| 13 | ゼミナール入門 (1) | 一斉講義から各ゼミナールでの学習への 移行。各ゼミナールの担当教員の紹介、な ど | 各担当 教員 |
| 14 | ゼミナール入門 (2) | 各ゼミナールにて、これからの学習のあり 方について話し合う、など | 各担当 教員 |
| 15 | ゼミナール入門 (3) | 後期のゼミナールに向けての準備、など | 各担当 教員 |
| 16 | 異文化交流 | 外部講師を招き、異文化交流について学ぶ | 牛渡、 ゲスト |
| 17 | グループ学習 (1) | ゼミナールごとに学習を進める | 各担当 教員 |
| 18 | グループ学習 (2) | 同上 | 各担当 教員 |
| 19 | グループ学習 (3) | 同上 | 各担当 教員 |
| 20 | グループ学習 (4) | 同上 | 各担当 教員 |
| 21 | グループ学習 (5) | 同上 | 各担当 教員 |
| 22 | グループ学習 (6) | 同上 | 各担当 教員 |
| 23 | グループ学習 (7) | 同上 | 各担当 教員 |
| 24 | グループ学習 (8) | 同上 | 各担当 教員 |
| 25 | グループ学習 (9) | 同上 | 各担当 教員 |
| 26 | グループ学習 (10) | 同上 | 各担当 教員 |

| | | | |
|----|-------------|-----------------|-----------|
| 27 | グループ学習 (11) | 同上 | 各担当 教員 |
| 28 | グループ学習 (12) | 同上 | 各担当 教員 |
| 29 | グループ学習 (13) | 同上 | 各担当 教員 |
| 30 | 学習発表会 | 各グループの学習成果を発表する | 各担当 教員 |

■ 履修条件

特になし

■ 成績評価方法

担当教員による評価：100%（学習への取り組み、討議における発言、ゼミでの発表、レポートや資料作成など、担当教員ごとに評価が行われる）

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

一斉講義部分では講義中にコメントへの応答を行う。各ゼミでの取り組みにおいては、担当教員との直接の応答となる。

■ 教科書

なし。授業の進行は、毎回の配布プリントに沿う。

■ 参考書・参考資料等

必要に応じて授業中に指示する。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

1～12回では、講義前に各回の講義内容を確認し、講義後に1時間程度資料等を再度読み直す、講義内容をふり返るなどして理解を深める。13回以降は、グループに分かれ各ゼミの課題に積極的に取り組む。事前事後の学習については各グループに担当教員から指示される。

■ 担当教員からのメッセージ

大学のゼミでは、学生が積極的に課題に取り組むことが求められます。自ら進んで学習する態度と、その後の学生生活のなかでの学習を進めていくうえでの学び方や学問的な基礎体力を身につけるよう努めましょう。ゼミは大学での学び方を、教員から直接学ぶことができる貴重な場です。この場での学びと培われた力は、在学中はもちろん、大学卒業後にも生きてきます。積極的に参加しましょう。（科目責任者）

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

各担当教員にて提示します。

■ 担当教員の実務経験の有無

無

■ 担当教員の実務経験

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

有

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

図書館司書

■ 実務経験を活かした教育内容